

伊勢志摩及び周辺地域マスタープラン(概要)

策定主体 伊勢志摩高付加価値インバウンド観光地づくり推進協議会
<事務局> 公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構

マスタープランの意義・役割		伊勢志摩の観光事業における持続可能な高付加価値観光戦略。 伊勢志摩の唯一無二の価値を明確にし、目指すゴールを地元住民・事業者等が理解・共感し、地域全体が一丸となって持続可能な地域づくりに取り組むために、地域として表明する観光戦略のグランドデザイン。
<地域の将来像> 成果目標(①地域全体・②観光産業)		<地域経済の好循環や価値の承継を確立させ、地域住民と来訪者とが共鳴する持続可能な地域> ①【KGI】経済波及効果、伊勢志摩の価値の承継 / 【KPI】域内調達率、平均所得、住民・事業者満足度 ②【KPI】観光消費額(入込客延数×消費単価)、観光客総合満足度・認知度・理解度・また来たい度
地域のディスティネーションブランディング	地域の滞在価値	格別のお宮である「伊勢神宮」に代表される承継の精神
	コアゾーン	伊勢市・鳥羽市・志摩市・南伊勢町・度会町・玉城町・明和町
	戦略素材	① 伊勢神宮を巡るプログラム ② 伊勢志摩国立公園で受け継がれてきた自然とそれを楽しむ体験 ③ 海女小屋体験や海女との交流 ④ 上質な宿泊施設とそのストーリー及び体験
	ターゲット	米英仏(Modern Luxury層)、日本人富裕層

	現状評価と課題	今後の方針
ウリ	シンボルとなる体験はあるが、それらを通し、伊勢志摩の価値を理解していただくこと、個々の体験を有機的につなぐことが必要。ソフトパワーが不足している施設の磨き上げも必要。	ウリ素材の磨き上げのほか、伊勢志摩の価値を可視化させた上でのコミュニケーションプランの策定、地域全体のストーリー化とサブコンテンツも含めた全体の磨き上げ。
ヤド	高付加価値旅行者の受入が可能な宿泊施設は、ポテンシャルを含め複数存在。同旅行者の受入状況、意向、クオリティ・キャパシティ等について調査し、進むべき方向の検討が必要。	調査を継続して実態を把握し、アクションプランを策定。(既存事業者の稼働率やレベル向上のための施策、品質管理のためのガイドライン策定等)
ヒト	地域の全容は掌握未済。高い専門性・ホスピタリティ等が必要だが、いずれも十分とは言えず、レベルもまちまちの可能性。担保するための育成が必要。	エキスパートガイド、通訳案内士、コンシェルジュ(※)の役割に分け、引き続き調査。エキスパートガイド・通訳案内士の発掘・育成、コンシェルジュ機能の強化、ワーキンググループ等を発足し課題共有、クオリティ担保。 (※)の3者以外についても、地域一体で、ホスピタリティの向上に向けた取組、観光産業を支える人材の裾野を広げる取組を実施。
アシ	都市部からのアクセスの悪さ、地域内の二次交通事業者の不足があり、ヘリコプターの活用においても課題。	既存事業者へのヒアリングを踏まえて、高付加価値化対応の可否と代替案を検討。ハイヤー運行実証、ヘリ受入に関する検討等。
コネ	アマナム等で既に個別にネットワークを有するも、エリア一体で体験を提供できる地域事業者は不在。高付加価値旅行者に対応する知見・ノウハウも不足。	DMC機能を含め、地域一体で手配できる体制の整備。高付加価値旅行者に精通するプレイヤー等の巻き込み。

